

東日本大震災の被災地と共に歩む～伴走型支援～公益財団法人共生地域創造財団

共生地域創造財団は、グリーンコープ・ホームレス支援全国ネットワーク・生活クラブが連携して、被災地の復興支援などに取り組みながら共生地域の創造をめざす団体です。

「3.11」東日本大震災から15年 被災地に寄り添い歩んできた日々

東日本大震災発災後の3月14日、グリーンコープは一刻も早く必要な物資を届けるために、10トントラックいっぱいの支援物資を詰め込み、到着地が決まらないまま被災地に向かいました。

目のあたりにした被災地の惨状に胸を痛めるとともに、被災地復興のためにできる限り寄り添っていこうという決意の下、今日までどれだけ多くの組合員が、ワーカーズが、職員が、被災地へ向かったことでしょうか。懸命に復興へ向けて頑張っている被災者の皆さんとともに歩み続けてきた被災地支援活動をたどってみましょう。

福岡から被災地へ



2011年3月14日、被災地支援に向けて出発した第1便の10トントラック。生活クラブ山形をとおして目的地が米沢市役所に決定。15日に到着。以降、現在まで支援活動が続けている

石巻

津波で壊滅した
蛤浜の風景



横倒しになった大きな
鯨缶詰のモニュメント



宮古

わかめ生産・加工メーカー重茂漁協
～震災後1ヵ月で復興へと立ち上がった～



わかめ加工工場や
養殖施設などすべてが根こそぎ奪わ
れてしまった

富岡

「出会い」から「支援」へ
～2013年4月より福島への支援始まる～



帰還困難区域
(福島県富岡町・2014年)

福島に至る所に積み上げられていた除染廃棄物を入れたフレコンバッグ。これらは2021年の東京オリンピックのために、ほぼすべてが中間貯蔵施設へ



南三陸

20mを超える津波が襲った
壊滅的な町の様子



・・・宮城県・・・

蛤浜 (石巻市)

最初に出会った小さな
漁村は目を覆う惨状だった

震災後に物資支援をお届けした多くの浜の中で最も小さい「蛤浜」。そこで出会った亀山夫妻をはじめ、漁村のみなさんにずっと寄り添い支援を続けてきました。蛤浜は2012年12月、牡蠣養殖再開にこぎつけました。隣の折浜との共同牡蠣作業所もでき「笑える牡蠣」の仕組みづくりも整い、牡蠣養殖は安定してきました。



震災直後に亀山夫妻の元に届いた支援者からの絵手紙。「生きていれば、きっと笑える時がくる」というメッセージが生きる糧となり支えとなりました



2025年11月、被災地訪問した共同体理事メンバーによる「折浜・蛤浜共同牡蠣作業所」視察の様子



2015年12月、亀山さんにグリーンコープからの災害見舞金を贈呈する元共同体田中代表理事と元GCOふくおか大橋理事長

WATALIS (亘理町)

地域のコミュニティを
大切にした事業

震災後に発足したWATALIS。地域の高齢者の交流の場として古い着物生地を再生利用する小物づくりを続けてきました。震災から15年、地域のつながりを取り戻す活動が定着していく中、「これからさらには未来を見据えて次のステージへと歩み出します」と語る引地代表は、養蜂業への道へ歩み始めています。

※WATALIS制作の小物はカタログGREENで企画しています



養蜂作業をする引地代表

デイサービスえん (山元町・亘理町)

地域に根差した福祉の
取り組みに頑張っています

震災2年前に介護施設を開所したものの津波で壊滅。利用者さんのために山間部に移動して再開。先遣隊としてグリーンコープ福祉ワーカーズが支援に入った先の一つ。2014年亘理町に新介護施設を開所。主宰する斎藤夫妻はグリーンコープとの出会いに感謝しながら日々頑張っています。

2025年10月、「えん」を訪問した共同体理事メンバーと斎藤さん夫妻の交流の様子



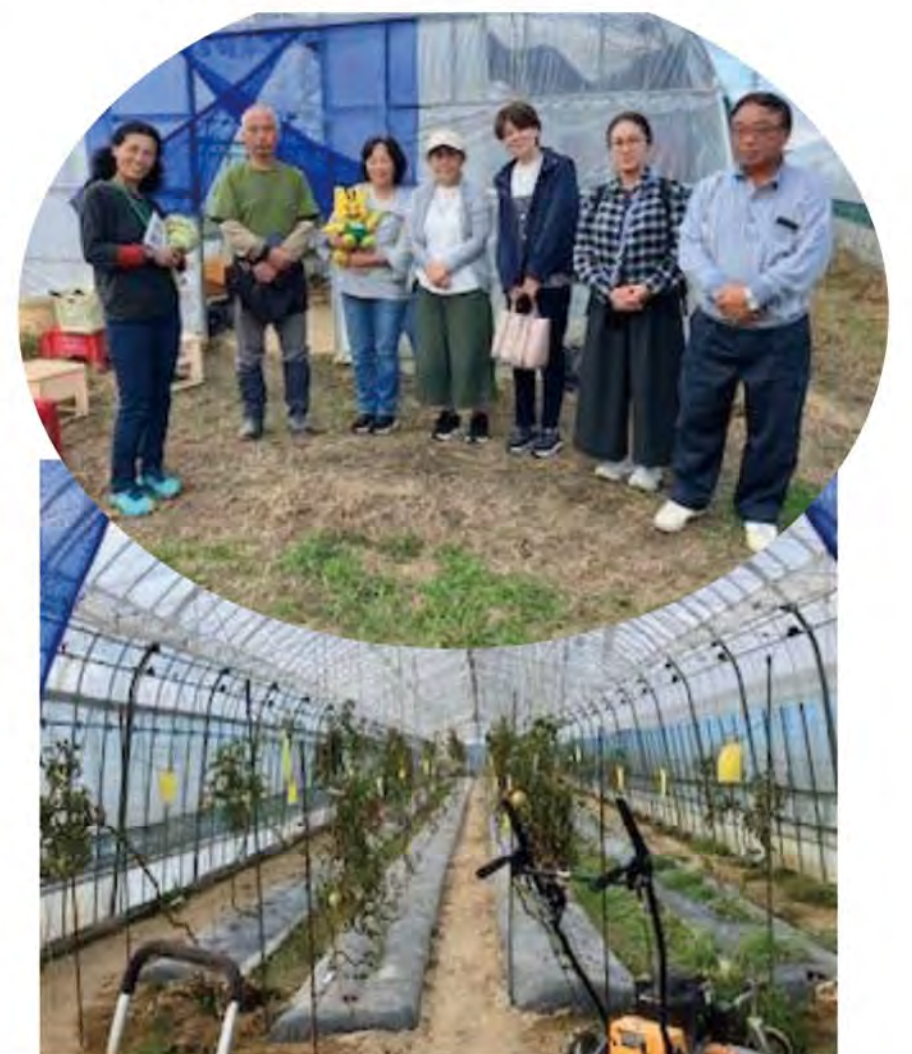
「えん」の中庭



高野農園 (亘理町)

加工用トマトの生産に
頑張っています

亘理町沿岸部へのグリーンコープの支援は、震災直後の瓦礫撤去、菜種の種蒔きから始まりました。震災でもうだめかとあきらめかけていた時、グリーンコープと出会い、2012年からマイファームの一員として加工用トマト栽培を行い、その後、高野農園として独立。加工用トマト栽培を継続するとともに、トマケチャップの製造・販売も行っています。



2025年10月、共同体理事メンバーが現地を訪問したときの様子

社福グリーンコープは、就労支援に向けた人材育成に取り組みました

2級ホームヘルパー養成研修講座開催

2011年7月から1年間、現地支援に入る中でこれまでの人的派遣を超えて、現地の雇用に役立つ支援として、2012年8月からヘルパー養成研修を福祉ワーカーズ連合会が担いました。仮設住宅の方、資格を取得して次に踏み出そうと決意した方などそれぞれの状況がある中、その年の10月、14人の方が修了されました。



主催一般財団法人共生地域創造財団
介護員養成研修2級課程宮城講座

齊藤農園 (亶理町)

いちご農家として
再生・復興を遂げました

震災前は、14棟のハウスを所有するいちご専業農家でした。震災後、畑の瓦礫撤去や自宅の自力再建にグリーンコープも支援しました。「一度は苺栽培を断念したものの、みんなから力をもらって再起へ向かうことができ、おかげでいちごを復興できた」と、齊藤さんは感謝でいっぱいと言います。この復興いちごは、土耕栽培、ミツバチ受粉、農薬不使用にこだわっています。



齊藤さんご夫婦

復興いちご畑

サンスイ本社 (石巻市)

取引メーカーからの
連携で出会う支援

グリーンコープの取引先をとおして出会いました。「3.11」の津波で工場が全壊したものの、すぐに復興を決意。自前で工場の復旧工事を行い再開されました。新工場に導入した液体窒素急速冷凍機で鮮度抜群の刺身を加工しています。グリーンコープでは、復興応援企画としてカラスカレイを取り扱いました。今は休止しています。



震災直後の工場



再建された新工場

高橋徳治商店 (東松島市)

若者たちが自信を
持って働く場所づくり

震災前は、石巻市に3つの水産加工工場を持ち、添加物を使わない練り製品を製造販売していました。震災で何もかも失い、工場の復旧をあきらめつつある中、全国から多くのボランティアが支援に訪れました。解雇した元社員を呼び戻し再生の道へ踏み出し、東松島市に新工場を建設しました。野菜加工工場も併設し、未来を創る若者たちが働く場となっています。※グリーンコープではおとうふ揚げやカットレモンなどを取り扱っています



代表の高橋社長



コミュニティスペース うみねこ(女川町)

高齢者も若者も女性も
男性も一緒に地域づくり

代表の八木純子さんの実家があった高白浜の集落が壊滅。震災後すぐ、仮設住宅で避難生活をしている高齢女性たちが不安を抱え孤立している様子に、一念発起して手仕事による布草履作りを始めました。作った製品はグリーンコープでも取り扱っています。2014年にはコミュニティスペース「ゆめハウス」を開設。高齢男性による畑作りや若者たちによるゆめ創出事業を展開。グリーンコープとの出会いは衝撃的で、信頼・強さ・温かさによる地域づくりを学び実践していると話します。



次のステップとして2022年、石巻市に地域の人が集い、女性が働ける場をオープン



ゆめハウス(高白浜)

エンドーすずり館 (雄勝町)

天然の硯石を手彫りで
削り続けることを決意

震災後、雄勝町での支援活動の中で、エンドーすずり館の遠藤弘行さんと出会いました。甚大な被害を受けてすべてを失ったものの、泥の中から父親の作品が奇跡的に見つかったことで「雄勝でもう一度すずりをつくりたい」と復興を決意。出会いから10余年、プレハブで事業を継続。真に書道を愛する人のため、天然の硯石を削ってすずりをつくっていきたくてと言います。



… 岩 手 県 …

あすなろホーム (陸前高田市)

2019年3月、震災を伝える映画
「星に語りて」の舞台となりました

知的障がいのある18歳～60歳代までの約40人が食品加工や授産作業に取り組んでいたあすなろホーム。場所が高台にあったことで津波被害を免れ、地域の避難場所として、被災者が共同生活をされていました。グリーンコープはそこに支援物資を届けていました。200年以上前から「陸前高田」に自生していた柚子を原料にした「北限のゆず塩」をあすなろも商品開発メンバーとなって誕生させました。グリーンコープでも取り扱っています。



わかめの加工作業をする
あすなろのメンバー



2025年年11月に現地訪問した共同体理事メンバーと西條さん(前列左)はじめあすなろ関係者の方々

スナフキン・アンサンブル (陸前高田市)

生活困窮者総合型 就労支援 モデル事業を受託

2022年、共生地域創造財団陸前高田事務所を卒業・独立し、新たに活動を始めました。精神疾患・軽度知的障がい・ひきこもり・その他の生きづらさや働きづらさを抱える人々の就労支援や居場所づくりを行っています。団体名には、誰もが自分らしく誰かと関わり支えあい、そこで生まれる多様な調和を社会に広げたいとの思いが込められています。「どう生きたいのか」「なんのために働くのか」を一緒に考え、共に前に進むことを大切にしています。その一つがユニバーサル就労の機会創出。人と出会い、語り合うことで生き方・働き方を考える機会となっています。



元、理事長の石井優太さんと、2025年11月に被災地訪問した共同理事メンバー

ブレスユ- (山田町)

社会からの孤立を防ぐため 目に見えない垣根を超える

共生地域創造財団大槌事務所から2022年に独立し、山田町で震災並びに台風19号被災者への生活再建伴走支援を行っています。小さな課題にしっかりと目を向け、「一度会ったらお友達」を合言葉に柔軟な発想で人と人をつなぐ、接着剤のような役割を担って活動しています。

❖ VISION

…コミュニティ創り及びシングルマザーが自分の可能性を信じ、次のステージへ向かうことのできる社会の創造

❖ MISSION

…挑戦する人に伴走し、自立に必要な仕組みを生む

❖ ACTION

- ・喫緊の生活困窮に対し出費を抑える支援を実行する
- ・将来的な自立に向けて収入を増やす支援を実行する
- ・人々がともに手をつなぐための接着剤となる



代表理事の
中居知子さん



きょうせい (大船渡市)

「おたがいさま」の 暮らしがある社会

2021年、共生地域創造財団から独立。震災被災者支援活動とあわせて、地域の公共機関や市民団体などがお互いに支えあう協働の「場」づくりとその活動を支える事業を大船渡市から委託されています。主な事業は、「被災世帯等に対するパーソナルサポート事業」と「災害公営住宅に対するコミュニティサポート事業」の二つです。支えあいが張り巡らされた地域、生き生きと穏やかに安心して暮らせる地域づくりをめざしています。



代表理事の
佐々木敦子さん



佐々木さんを囲む被災地訪問した共同理事メンバー

… 福島県 …

南相馬・避難 勧奨地域の会

放射能汚染がない故郷で 安心して子育てができるように

2015年にグリーンコープから寄贈したNaiシンチレーション残留放射能測定器2台を活用して測定活動を行っています。相馬市の特定避難勧奨地点がある地域は、高線量の地点があるにもかかわらず、2014年に指定が解除されました。解除基準の年間20ミリシーベルトは高すぎる(国の基準は1ミリシーベルト)とし、国に対して訴訟を起こしましたが、不当な判決を受けています。これまでグリーンコープはその運動に連帯してきました。



放射能測定器



南相馬避難勧奨地域の会の皆さんと2025年10月被災地を訪問した理事メンバーとの交流の様子

昭和横丁 (川内村)

春は山菜、秋はキノコ…、 実り多い豊かな地域へ

震災を受けて郡山で仮生活をしていた川内村の村民による青空市場への支援がきっかけとなり、2014年にグリーンコープは自治会長の志田さんと出会いました。志田さんは、村の再生をめざして「NPO法人昭和横丁」を設立。グリーンコープは村のコミュニティ活性化の応援・見守りを続けてきました。昭和横丁の友誼団体「きららの会」の手作り品の販売支援も行っています。



「昭和横丁」が開催する青空市場のようす



きららの会メンバーが
手作りした「針刺し」

葛力創造舎 (葛尾村)

移住した若者中心に 持続可能なコミュニティづくり

震災で全村避難となっていた葛尾村は、2016年に避難解除となりましたが、かつては1500人いた村民は現在約450人になり、しかもほとんどが高齢者です。村では生まれ育った下枝さんは一念発起し、「NPO法人葛力創造舎」を立ち上げ、村の再生に向け、移住者と農家が連携したコメ作りや加工品作り、交流会等のイベント開催を手がけています。そうした活動に組合員も積極的に参加しています。

葛尾村の田植の風景

葛尾村で除染した田んぼに一本ずつ苗を植える熊野元代表理事
(2018年5月)



花見山を守る会 (福島市)

福島県の花見スポット として再生をめざす

震災前は、桜や花弁農家の花の観光スポットとして、多くの観光客が訪れていた花見山。原発事故後は、放射線量が高く、気軽に花見ができ場所ではなくなりました。そこで花見山を守る会の高橋代表は、落葉樹の桜を植えて除染をしようとして、「桜を植えるプロジェクト」を設立。就労にもつなげています。組合員も支援のためにプレートにメッセージを刻み、桜の苗木を植樹、生長を見守っています。



「花見山を守る会」高橋代表
～咲き誇る蠟梅の前で～



植樹の際のメッセージプレート

春、花いっぱいの花見山の風景

田村さんの実家 (浪江町)

今でも続く放射能汚染 帰還困難地域の我が家

二本松市の県営住宅石倉団地の自治会長・田村智則さんをはじめ、原発事故以前、浪江町に住んでいた住民は今でも避難生活を強いられています。浪江町にある田村さんの実家は、まだ放射線量が高いまま。国は除染したと言いますが、山林の除染ができておらず、雨が降ると汚染された土砂や木の葉が流れ出てきて、とても暮らしていくことはできません。15年経っても課題が山積みだと言います。



荒れ果ててしまった田村さんの実家

放射線量を測定してみると12.02 μ Svという高い数値でした

ひまわりプロジェクト (福島市)

全国支援者との絆事業 ～ひまわり油の製品化

「シャローム福祉会」は、震災3年前から障がい者授産施設として、ひまわりを栽培し、種から搾油して「ひまわり油」を製品化することを事業の一つとしていました。しかし原発事故でその事業は絶たれてしまいました。そこで「ひまわりプロジェクト」を立ち上げ、放射能汚染の心配がない県外の支援者にひまわりを育て種を送ってもらうという絆事業を始めました。グリーンコープは2014年から参加しています。



ひまわり油「みんなの手」



全国から寄せられたひまわりの種のみを選別するために風で藁や屑を飛ばす作業をします

東日本大震災から15年経った「今」の被害(避難者数)状況とカンパ報告

復興がすすんでいる宮城と岩手、いまなお原発事故の影響が続く福島。避難者数からその実態が見えてきます。

	2011年12月			2025年11月1日(復興庁)		
	県内	県外	計	県内	県外	計
福島県	95,200	59,464	154,664	4,520	19,176	23,696
宮城県	122,557	8,603	131,160	701	819	1,520
岩手県	43,953	1,536	45,489	301	512	813
計	261,710	69,603	331,313	5,522	20,507	26,029



組合員からのカンパは
被災地の皆さんの自立のための
支援活動の原資として
使われています

カンパ金総額 357,775,713円
財団へのカンパ金総額 225,500,000円
独自支援費用 111,660,509円
残金 20,615,204円

《データは2025年10月20日時点のものです》

- 2011年
- 3月

・14日から毎日支援物資を継続的に搬送開始

・21日に組合員に支援物資提供の呼びかけ
- 4月

・蛤浜亀山さんと出会い、浜の復旧作業スタート

・地元の商品などの残留放射能検査の依頼開始
- 5月

・避難所と仮設の両方に物資配布始まる

・福祉Wco連合会によるボランティアを派遣。亘理・山元町での支援活動が始まる
- 6月

・組合員から寄せられた布団4000組のうち、打ち直した敷布団(600枚)と毛布(2000枚)を被災地に搬送

・蛤浜での家屋解体と瓦礫撤去のため九州から重機を手配して作業にあたる

・GC職員にボランティア募集。工場や蛤浜の瓦礫撤去、避難所・仮設への物資配送支援に入る

・蛤浜に漁船(大分の方からの寄贈船)を搬送
- 7月

・山元町の介護福祉施設、デイサービスセンターで福祉Wco連合会のボランティア支援活動

・GC職員ボランティア支援(牡蠣筏準備作業や高橋徳治商店や西光寺の泥出しや機械の清掃や墓石片付け)
- 8月

・亘理の苺農家斎藤農園の瓦礫撤去支援開始

・支援長期化に伴い常駐職員1人配置。公益財団化の準備開始
- 9月

・福祉Wco連合会から介護施設へ、GC職員が水産工場や物資搬送へ

・仮設住宅への物資搬送強化

・大船渡で仮設・在宅向け支援活動強化
- 10月

・GCに放射能測定器2台を設置

・配布会用物資を各被災地に配送

・冬物衣料配布会開催(石巻・亘理で8回)

・高橋徳治商店第2工場瓦礫撤去作業支援
- 11月

・被災地で配布会(亘理・大船渡・米沢・東松島)

・福祉Wco連合会から介護施設へ。GC職員による物資配送・配布会・倉庫作業支援活動

・11/1付、一般財団法人共生地域創造財団設立(以下、財団)
- 12月

・GCの取引先からクリスマスと正月用の餅やお菓子が届き被災地に配送

・福祉Wco連合会から介護施設へ支援

・組合員からの提供物資の布団・こたつ布団を被災地に配布

・年末に冬物衣料配布会(山元・石巻・宮城野・女川・岩手)

- 2012年
- 1月

・福祉Wco連合会の6人が介護施設に、GC職員3人が被災地へ物資配送

・大船渡市から財団に在宅見守り支援要請

・食料・冬物衣料配布会を開催(山元・米沢で6回)

・ゲルマニウム半導体検出器を設置
- 2月

・在宅支援・仮設の生活困窮者宅に卵などを配達

・冬物衣料配布会を開催(山元・米沢で6回)

・福祉Wco連合会から介護施設に、GC職員が被災地へ物資配送の支援
- 3月

・亘理町で農業復興のため加工用トマト作付支援開始
- 4月

・WATALIS事務所開所式

・蛤浜に牡蠣筏用ロープ等資材支援
- 5月

・大船渡市から委託「見守り支援事業」スタート。被災者5人雇用

・蛤浜では震災前の筏の数まで復旧

・女川「うみねこハウス」開所
- 6月

・亘理町と山元町の介護施設への人的支援終了。8月からのヘルパー養成2級講座準備開始
- 7月

・女川町の「うみねこハウス」にトイレを設置支援
- 8月

・山元町でヘルパー養成2級講座開講

・GCから亘理の加工用トマト初収穫ボランティア支援

- 9月

・亘理の加工用トマト初収穫ボランティア支援

・折浜・蛤浜「共同かき処理場」工事着工
- 10月

・内閣府より「公益財団法人」認証認可

・加工用トマト収穫終了(125トン)、その後、白菜、大根作付け
- 11月

・大船渡市内4ヵ所にスクールバス停を設置
- 12月

・女川町・福島市南相馬で物資配布会を開催

- 2013年
- 1月

・蛤浜で牡蠣出荷開始
- 3月

・就労支援事業「笑える牡蠣」販売開始。同時に牡蠣出荷作業現場で就労訓練の試み開始
- 4月

・WATALISとうみねこハウスが法人化
- 5月

・うみねこハウスではイチジク定植の作業支援

・亘理の農場でトマト3万本定植支援
- 6月

・GC応援企画の銀鮭漁場を代表理事視察
- 7月

・高橋徳治商店新工場落成式
- 9月

・介護初任者研修終了。27人が資格取得

・うみねこハウス「コミュニティ農園」で唐辛子収穫支援

・GCよりトマト収穫支援
- 10月

・蛤浜折浜の牡蠣出荷スタート
- 11月

・亘理のトマト生産者へ生産奨励金を贈与
- 12月

・女川「ゆめハウス」落成式

- 2014年
- 2月

・ぽかぽかPJ食材支援開始
- 3月

・ひまわりPJ支援検討開始

・亘理町逢隈児童館にサッカーボール贈呈
- 4月

・女川「ゆめハウス」のコミュニティ農場にイチジク38本を植樹支援
- 5月

・亘理町の御神輿復興祭への支援(丸子農園にGC菓子50人分贈与)

・GCの組合員、施設や店舗で福島支援ひまわり栽培開始
- 7月

・ぽかぽかPJ視察訪問
- 9月

・福島県川内村と出会い、避難先の郡山南一丁目仮設への支援開始
- 10月

・福島NPO法人「シャローム」と女川「うみねこ」メンバーがGC地域運動交流集会で活動報告
- 11月

・財団保有のキッチンカーを川内村の仮設等で活用

・GCからひまわりの種を福島に出荷(80kg)
- 12月

・ひまわり感謝祭におおいた理事長、ふくおか西地域理事長出席、福島を視察

- 2015年
- 1月

・亘理の斎藤農園の苺、震災後初出荷。GCでの販売支援
- 3月

・ぽかぽかPJへの食材支援
- 5月

・被災地支援ボランティア短期募集し、ふくおか・くまもとの職員が女川・石巻・福島で支援活動

・財団の事務所が、仙台市から名取市へ移転
- 6月

・GC放射能測定器2台(NAIシンチレーション)を南相馬避難勧奨地域の人に寄贈
- 7月

・福島市の保育園「こどものいえ そらまめ」へGCの食材、毎週支援開始
- 8月

・「花見山を守る会」で桜植樹支援(各生協)

・ひまわり子ども大使が糸島・柳川・熊本・小国町を訪問
- 9月

・財団、関東東北水害被災地支援へ
- 10月

・蛤浜折浜、シケで牡蠣(2年目)が殆ど海に落下
- 11月

・「亘理の真つ赤なトマトケチャップ」を1万本製造
- 12月

・蛤浜折浜へ災害見舞金贈呈

・ひまわり感謝祭に組合員4人参加

・出荷作業で就労訓練生8人参加

- 2016年
- 1月

・福祉Wco連合会が「大震災から5年後の被災地を巡る訪問」を実施(参加者4人)
- 2月

・WATALISがコミュニケーションカフェ「中町カフェ」をオープン。財団が支援

・ぽかぽかPJへ食材支援
- 3月

・GMOフリーゾーン全国交流集会inみやぎに参加後、「被災地を巡るオリジナルオプションツアー」実施

・「3・11東日本大震災五年後集会」

・福島 of 保育園「こどものいえそらまめ」閉園。GCからGCの食材やせっけんを支援

・亘理の「土耕栽培の復興いちご」農家斎藤夫妻に各生協から応援メッセージ贈呈
- 4月

・大分の「浄土宗からの米一升運動」支援。福岡から仙台までの送達をグリーンコープが対応

・大船渡市の在宅見守り、仮設相談支援事業受託
- 5月

・縁をつむぐ会が「設立二十周年記念行事被災地支援先を巡るメモリアルツアー」実施(5/16～18・参加者26人)

・花見山を守る会へ支援(GC全体で250本の桜を植樹)
- 6月

・ひまわりプロジェクトスタート

・共生地域創造財団石巻事務所開設(名取から移転)
- 8月

・台風10号被害地(岩泉町)に物資支援とボランティア派遣、町と県内のNPOの協働プロジェクトに参画(被災住民の生活再建相談支援サポート)
- 9月

・NPO法人昭和横丁の川内村のコミュニティ拠点(買物支援、見守り)作りへの支援(業務用冷凍冷蔵庫の貸し出し)
- 10月

・地域運動交流集会(12日)。花見山を守る会高橋代表が福島 of 現状と花見山の取り組み紹介
- 11月

・ひまわりの種を福島へ発送(40kg)

・「花見山を守る会」のお正月向けの生花「梅」と「蠟梅」を内販企画支援
- 12月

・第1回「ともいき」シンポジウム～復興支援から困窮者支援へ」にGCから10人参加

・ひまわり感謝祭へ組合員4人参加

- 2017年
- 2月

・復興応援企画(49号)
- 3月

・復興支援組合員カンパ

・ぽかぽかPJへの食材支援
- 4月

・復興応援企画(4号)

・ぽかぽかPJへの食材支援

・宮城県石巻市被災者支援事業(仮設住宅対象)を石巻市から受託・開始

・岩手県大槌町被災者再建支援事業を大槌町から受託。新規事業の受託に伴い岩手大槌事務所を新規開設。3人体制でスタート

・岩手県大船渡市から被災世帯へのパーソナルサポート事業受託。仮設・看做し仮設・在宅被災者含めた昨年同様に今年度委託を受ける。10人体制で対応
- 5月

・ひまわりPJでひまわりの種巻き

・グリーンコープで21908粒の種を撒いた

・ぽかぽかPJへの食材支援

・岩手県大槌町の仮設住宅全戸へ事業案内・周知のためのチラシを投函
- 6月

・復興応援企画(13号)

・ぽかぽかPJへの食材支援

・岩手県大槌町の仮設住宅入居期限について行政主催の説明会に同席。参加者からの相談開始
- 7月

・岩手県大槌町の再建支援会議の定期開催を開始。共生地域創造財団主催で行政と社会福祉協議会を交え仮設住宅に残る懸案世帯への支援方針検討の場として開始
- 8月

・復興応援企画(22号)

・ひまわり大使8人来訪(保養)＜くまもと・(島根)＞

- ・福島ぽかぽかプロジェクト(南房総)への食材支援8月11日～17日で開催され、25人の親子が参加
- ・「被災地から考える社会保障フォーラム」(共生地域創造財団の主催)を開催
- ・岩手県大槌町で年度内撤去予定仮設への重点巡回を開始(8月～11月まで)H29年度中に撤去予定の仮設団地を重点的に巡回し、全世帯への転居計画の確認を開始
- 9月・ぽかぽかPJへの食材支援
- 10月・石巻事業拡大により共生地域創造財団の本部事務所、名取市から石巻市へ移転
- ・宮城県石巻市の仮設住宅の伴走支援に見倣し仮設も加わり、伴走型被災者支援事業として石巻市から新たな委託を受け体制を3人から10人とし運用開始
- 11月・復興応援企画(35号)
- ・ぽかぽかPJへの食材支援
- ・伴走型支援士講座(ホームレス支援全国ネットワークと共催)を石巻市にて開催
- 12月・ひまわり感謝祭に理事長3人参加
- ・グリーンコープで81.8kgの種を採取
- ・組合員による福島県・宮城県訪問・視察交流 ※福島県の南相馬・避難勧奨地域の会、NPO法人昭和横丁・NPO法人葛力創造舎・NPO法人花見山を守る会、宮城県の斎藤農園・折浜・蛤浜・NPO法人コミュニティスペースうみねこを訪問
- ・岩手県大槌町での仮設住宅の目的外入居者への支援活動を開始。Uターン者など被災者以外の仮設入居者も支援対象

2018年

- 1月・ぽかぽかPJへの食材支援
- 2月・復興応援企画(49号)
- ・宮城県亘理町の斉藤農園のイチゴ応援・販売
- ・折浜・蛤浜での就労訓練生による牡蠣の出荷開始
- 3月・名取市閉上追悼イベントへ絵灯籠の絵を贈呈
- 4月・福島県・宮城県への訪問・視察交流(第1弾)
- ・大槌町被災者再建支援事業を受託
- ・大船渡市被災世帯等に対するパーソナルサポート事業を受託
- ・石巻市伴走型被災者支援事業を受託
- 5月・福島県・宮城県への訪問・視察交流(第2・第3弾)
- ・葛尾村で田植え支援・交流(組合員7人参加)
- 6月・福島県・宮城県への訪問・視察交流(第4・第5・第6弾)
- ・ひまわりPJでの種まき(132ヵ所)
- ・福島のお母さんを招いて報告・交流会(ふくおか)
- ・ひまわりPJに参加(財団3事業所で種植え)
- ・宮城県みやぎ地域復興支援助成金(就労支援事業)を採択
- 7月・福島ひまわり大使来訪(ふくおか・おおいた)
- ・ぽかぽかプロジェクト(猪苗代での保養支援)に組合員参加交流
- 8月・22号復興応援企画
- 9月・ぽかぽかPJ食材支援
- 10月・葛尾村での稲刈り支援(組合員3人参加)
- ・ひまわりの種収穫(132ヵ所・種243kgを福島へ発送)
- 11月・35号復興応援企画(ひまわり油等も販売)
- ・やまぐち組合員視察交流(組合員4人参加=南相馬市・浪江町・川内村・葛尾村・福島市・飯館村・石巻市・女川町)
- ・ぽかぽかPJ猪苗代での保養支援に組合員4人参加
- ・生活クラブ神奈川復興支援まつりに出店
- ・伴走型支援士講座を石巻市にて開催(NPO法人ホームレス支援全国ネットワークと共催)
- 12月・ひまわり感謝祭参加(2人の組合員が参加交流)
- ・子どもの保養支援カンパ金をNPO法人シャロームへ贈呈

2019年

- 1月・「笑える社囀」(蛤兵翻兵の牡蠣)を出荷開始
- ・ぽかぽかPJ食材支援

- 2月・折浜・蛤浜での就労訓練生による牡蠣の出荷開始
- ・復興応援企画販売
- ・特定営利法人アースウォーカーズ福島支援PJへの活動資金支援
- 3月・組合員カンパ募集チラシ配布
- ・ぽかぽかPJ食材支援(2回)
- ・福島県・宮城県へのふくおかの組合員による視察交流訪問(第1弾、第2弾)(南相馬市・浪江町・富岡町・川内村・葛尾村・福島市・石巻市・女川町)
- 4月・ぽかぽかPJ参加のお母さんを招いての座談会(ふくおか)
- ・福島県と宮城県へのふくおかの組合員による視察交流訪問(第3弾)
- ・除染土再利用反対署名
- ・南相馬避難勧奨市地域の会への寄贈の放射能測定器メンテナンス支援
- ・大船渡市災害公営住宅コミュニティサポート事業を開始
- 5月・葛尾村で田植え(組合員3人参加)
- ・ぽかぽかPJ食材支援
- ・福島のお母さんを招いての報告会(ひろしま)
- 6月・ひまわり作付(127ヵ所)
- ・葛尾村「みんなの第二の実家をつくりたい」PJ支援
- ・陸前高田市ユニバーサル就労支援センターの運営開始
- ・えひめ伴走型支援助成事業(西日本豪雨支援の助成支援)開始
- 7月・ひまわり大使受入(ひろしま・やまぐち・ひょうご)
- ・ぽかぽかPJ食材支援
- ・大槌事業所で「ひよっこリーゼダイニング(夕食会)」開始
- ・熊本伴走型支援助成事業(熊本地震支援の助成支援)開始(共生地域創造財団)
- 8月・ぽかぽかPJ食材支援
- ・はっぴーあいらんど保養企画/食材・機材支援(北九州市若松区)
- ・復興応援企画販売
- 10月・葛尾村で稲刈り
- ・福島のお母さんを招いての報告会(かごしま・おおいた)
- ・ひまわりの種収穫(127ヵ所からの4.69kgを福島へ届けた)
- ・台風19号被害による岩手県(宮古市・山田町)、宮城県(丸森町・女川町)、福島県(福島市・相馬市・いわき市)への物資支援開始
- ・陸前高田市生涯現役促進地域連携事業を開始
- ・新たに石巻市地域包括化推進業務を開始
- 11月・ぽかぽかPJ食材支援
- ・復興応援企画販売
- ・川内村昭和横丁への朝市・居場所用プレハブ設置支援
- ・ちくりん舎(NPO法人市民放射能監視センター)への放射能測定器修理費用支援
- ・台風19号支援として岩手県山田町にて炊き出しを実施
- 12月・ひまわり感謝祭参加(組合員3人)
- ・NPO法人シャロームへひまわり油販売利益分をひまわりPJ活動支援金として贈呈。
- ・花見山を守る会へ台風19号災害義援金を届けた。
- ・丸森町の子ども園へのツリー・お菓子・絵本プレゼント
- ・伴走型支援士講座とシンポジウム「震災復興と就労支援」を陸前高田市にて開催

2020年

- 1月・ぽかぽかPJ食材支援(2回)
- ・台風19号災害義援金贈呈(蛤浜・コミュニティスペースうみねこ)(山長遠藤・サンスイ・まるたか水産)
- ・放射能測定器修繕カンパちくりん舎へ
- ・メンテナンス支援(ふくい)
- 3月・ぽかぽかPJ食材支援
- ・復興応援企画販売
- 6月・ひまわり作付け(122ヵ所)
- ・復興応援企画販売
- ・ぽかぽかPJ食材支援

- 8月・ぽかぽかPJ食材支援
- 9月・復興応援企画販売
- 10月・ひまわりの種収穫(122ヵ所からの124kgを福島へ届けた)
- 11月・復興応援企画販売
- 12月・ぽかぽかPJ食材支援

2021年

- 1月ぽかぽかPJ食材支援
- 2月共生地域創造財団大船渡事業所が独立し、「特定非営利活動法人きょうせい大船渡」を設立し活動スタート
- 3月復興応援企画販売
- 6月復興応援企画販売・ひまわり作付け(139ヵ所)
- 8月復興応援企画販売
- 10月葛尾村の下枝さん米作りの活動を応援するためグリーンコープから代表理事をはじめ多くの組合員が稲刈りや稲架掛けを行った・ひまわりの種収穫(139ヵ所からの147kgを福島へ届けた)
- 11月「NPO花見山を守る会」の震災孤児への経済的支援の一部を「東日本大震災復興支援募金」から支出、復興応援企画販売

2022年

- 3月復興応援企画販売
- 4月共生地域創造財団大槌事業所が独立し、「一般社団法人プレスユー」を設立し活動スタート
- 6月ぽかぽかPJ食材支援/ひまわり作付け(119ヵ所)/復興応援企画販売
- 8月復興応援企画販売
- 10月ひまわりの種収穫(119ヵ所からの193kgを福島へ届けた)
- 11月「NPO花見山を守る会」の震災孤児への経済的支援の一部を「東日本大震災復興支援募金」から支出/NPOうみねこの八木代表が石巻に「ぐるめ処はんじろう」をオープン。総菜販売や弁当を提供。「女性が生活に合わせて働ける職場」を目指し、開店/復興応援企画販売

2023年

- 3月復興応援企画販売
- 5月ぽかぽかPJ食材支援
- 6月ぽかぽかPJ食材支援/ひまわり作付け(118ヵ所)/復興応援企画販売
- 8月復興応援企画販売
- 9月ぽかぽかPJ食材支援
- 10月ぽかぽかPJ食材支援/ひまわりの種収穫(118ヵ所からの129kgを福島へ届けた)
- 11月「NPO花見山を守る会」の震災孤児への経済的支援の一部を「東日本大震災復興支援募金」から支出/復興応援企画販売

2024年

- 1月ぽかぽかPJ食材支援
- 3月復興応援企画販売/ぽかぽかPJ食材支援
- 4月ぽかぽかPJ食材支援
- 5月ぽかぽかPJ食材支援
- 6月ひまわり作付け(125ヵ所)/復興応援企画販売
- 8月ぽかぽかPJ食材支援
- 10月ぽかぽかPJ食材支援/ひまわりの種収穫(125ヵ所からの87kgを福島へ届けた)
- 11月復興応援企画販売/「NPO花見山を守る会」の震災孤児への経済的支援の一部を「東日本大震災復興支援募金」から支出
- 12月ぽかぽかPJ食材支援

2025年

- 2月ぽかぽかPJ食材支援
- 3月ぽかぽかPJ食材支援
- 6月ぽかぽかPJ食材支援/ひまわり作付け(116ヵ所)
- 7月「ひまわり油みんなの手」の販売の累計販売差額利益額(315680円)をひまわりプロジェクトの運営費用支援として贈呈
- 8月ぽかぽかPJ食材支援
- 10月東日本大震災15年後集会報告会に向けた組合員被災地ツアー(福島・宮城コース)延べ8人参加/ぽかぽかPJ食材支援/ヒマワリの種収穫(116ヵ所からの96kgを福島へ届けた)
- 11月東日本大震災15年後集会報告会に向けた組合員被災地ツアー(岩手・宮城コース)延べ12人参加/「NPO花見山を守る会」の震災孤児への経済的支援の一部を「東日本大震災復興支援募金」から支出
- 12月ぽかぽかPJ食材支援

人と人のつながりをととした震災復興支援活動 15 年 被災地の地域再生をめざしてグリーンコープらしく寄り添ってきました これからも一緒に未来をめざして連帯していきましょう

15年後報告集会に向けて、グリーンコープ共同体理事の皆さんが、「福島・宮城コース」「宮城・岩手コース」に分かれて被災地を訪問しました。参加者のメッセージを紹介します。

東日本大震災15年後集会の計画をするため、今回2回にわたって被災地視察に参加させていただき、現地で頑張っているみなさんにお会いすることができました。震災後、一刻も早く東北に向かい支援活動を開始し、被災地に寄り添ってきた経過に触れ、被災者のみなさんと深い信頼関係を築いてきたことを実感しました。

福島では、今でも高い線量が測定される場所があることが分かりました。宮城や岩手の被災地の復興は進んでいますが、15年で終わりではなく、これからも支援が必要です。引き続き、カンパを呼びかけていきたいと思いました。

【共同体日高代表理事】



☎ 2025年10月10日～12日
東日本大震災被災地訪問参加者
《福島・宮城コース》



☎ 2025年11月21日～23日
東日本大震災被災地訪問参加者
《宮城・岩手コース》



震災から15年、新しい生活が始まっているところ、原発事故の影響がいまだに残る地域がありました。故郷に帰ることが許されない現状に対して、「知らなかったことが悔しい」「無知ではだめ」と感じるが多かった今回の視察でした。【ふくおか坂本理事長】

震災支援で出会った被災者や支援者一人ひとりが生きる希望を自らつかんできたこの15年、それこそが復興そのものではないかと。思いを持って行動する人と人のつながりが生み出す希望が未来への責任を果たしていくのだと思いました。【やまぐち松本理事長】

帰還困難区域の田村さん宅を訪問しました。空き巣に入られた形跡があるとのこと。木の根元の線量を測ってみると12μSv！あまりの高さに驚きました。なにもかもが事故当時のままで朽ち果てつつある風景にとっても重い気持ちになりました。【(長崎)石原理事長】

震災で失ったもの(家族・故郷・地域のつながりなど)は計り知れないし取り戻すことは難しい。そんな中で復興に向けて頑張ってきた被災者の皆さんから、深い感謝の言葉をいただきました。今後も被災地に心を寄せていきたいと思います。【ふくおか中村中部地域理事長】

同じ震災を体験し、これまで目を背けて生きてきました。今回の被災地視察で見聞きたことは自分の体験とは違い、津波被害の甚大さを知りました。出会った皆さんがあの日の体験を生かして前を向いて生きている様子に胸が熱くなりました。【ふくしま押山理事長】



復興とは何なんだろう、何をもって復興と言えるのだろうか。誰も答えを知らないと思います。でも絶対に忘れてはいけないし、同じ過ちを繰り返してはいけないのは確か…。いのちがある限り、伝えていかなければいけないと思いました。【おおさか篠原理事長】

被災者の方々ができることを考え行動し未来に向かっていく様子はエネルギーだと思いました。人を動かすのは、被災者に寄り添う気持ちや行為なのだと。一人の支援は小さくても仲間が集まれば前進できることを実感しました。

【ふくおか大坪福岡地域理事長】



今回の視察中、豪雨災害から8年になる福岡・朝倉のことを思いながら、震災から15年が経つ東北の被災者の方と出会いました。これからの新たなチャレンジへの支援は続くと思うと、それを見届けたいという気持ちになりました。

【ふくおか永井地域理事長】

震災の記憶を風化させないこと、支援の形を問い続けること、人と人のつながりを大切にする。その一つひとつをこれからの活動の中で、実践していきたいと思います。視察で得た気づきと想いを胸に活動を続けていきたいと思いました。

【ひょうご田内理事長】

グリーンコープが被災地に寄り添い続けてきたこと、組合員からのカンパが生かされ共生社会の創造がカタチになっていることを実感しました。今回、大分の方からのメッセージに励まされたという蛤浜の亀山さんに出会えたことに感謝です！

【おおいた薬師寺理事長】

被災地の街並みはきれいになり、復興が進んでいるように見えました。一方、震災で浮き彫りになった生活困窮者などの社会的弱者の問題には、これからも寄り添っていききたいし、今回知った被災地支援商品についてももしっかりアピールしていきます。【さが永田理事長】

今回被災者のみなさんに出会うことができました。「人と人がつながる」ことを体感することができました。震災から15年が経ち、これからもグリーンコープの被災地に寄り添った支援が継続できるように、「つながり」を大切にしていきたいと思いました。

【くまもと森田西地域理事長】